

# いわき農林水産ニュース

平成30年6月号（第160号） 発行 6月28日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



7月に旬を迎えるブルーベリー。  
直売所で是非どうぞ！

目次

・【特集】第47回全国林業後継者大会……………p.1

〔各種取組の実績（5～6月）〕……………p.3～

〔お知らせ・連載記事〕

・頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー……………p.7

・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果……………p.8

・田んぼの学校実施報告③……………p.9

・いわきハタチ酒プロジェクト実施報告②……………p.9

・大規模経営・生産管理習得研修報告……………p.10

・GAP コーナー……………p.11

・6次化商品紹介……………p.12

## 【特集】第47回 全国林業 後継者大会

### 全国林業後継者大会 2018 福島大会 in いわき 開催！

～未来へと つなげる心 <sup>もり</sup> 森林づくり～

#### 1 県内外の林業関係者が大集結！！

第69回全国植樹祭の関連行事「第47回全国林業後継者大会 2018 福島大会 in いわき」は6月9日、いわき芸術文化交流館アリオスで開催されました。

大会には県内外から林業関係者ら約460人が参加し、「未来へと つなげる心 <sup>もり</sup> 森林づくり」をテーマに、日頃の取組や林業を未来につなぐための在り方について意見を交わし、豊かな森林資源を次世代に継承する思いを全国に発信しました。



#### 2 活動発表やパネルディスカッションによる意見交換

活動発表では、「先輩方からの発表」、「現役世代からの発表」、「次世代からの発表」として、各世代から取組紹介やこれからの林業への思いについて発表がありました。

##### 「先輩方からの発表」

現在までの林業の姿を振り返るとともに後継者への期待を発表

##### 発表者

- ・田子 英司氏  
（いわき市森林組合代表理事組合）
- ・山本 壽美子氏  
（北塩原村の農家）
- ・佐藤 英一郎氏  
（猪苗代町議）

##### 「現役世代からの発表」

会津、中通り、浜通りそれぞれの地域で現在林業に従事する世代の優良な活動事例や森林づくりの取組を発表

##### 発表者

- ・水野 廣人氏  
（古殿町の水野林業）
- ・松澤 瞬氏  
（南会津町のNPO法人みなみあいづ森林ネットワーク）
- ・緑川 平隆氏  
（いわき市の田人林業研究会）

##### 「次世代からの発表」

大学生、高校生、中学生のそれぞれの世代から、現在、そしてこれからの林業に対する思いや自らが行う活動について発表

##### 発表者

- ・福島大学とげっちょ組
- ・福島県立会津農林高等学校
- ・天栄村立天栄中学校

また、発表者6人によるパネルディスカッションでは、京都府立林業大学校客員教授の藤野正也氏がコーディネーターとなり「後継者問題」「森林認証制度」をテーマに意見を交わしました。



(「にな☆コレ 2018」)

発表の合間には、アトラクションとして作業着や防護服を着た若手の林業担い手によるファッションショー、「にな☆コレ 2018」が行われ、林業のカッコよさ、楽しさをPRしました！

### 3 いわき市の林業後継者が力強く大会宣言

最後に、担い手代表として(有)豊田林業の豊田和弘氏と(有)平子商店の平子睦美氏が「林業を通して東日本大震災からの復興創生と地域の発展に貢献し『未来へつなげる森林づくり』に取り組む」とする大会宣言を読み上げました。大会後には、「交歓のタベ」がグランパルティいわき(市内平)で開かれ、熱い1日が終了しました。(森林林業部)



(大会宣言を読み上げる豊田さんと平子さん)

### 平中央公園で同時開催の「いわきトマト Fes!!」も大盛況！

全国林業後継者大会会場隣の平中央公園では、「いわきトマト Fes!!」が同時開催され、県内外から約 5,000 人もの来場客で賑わいました(「いわきトマト Fes!!」事務局調べ)。

当所のブースでは、いわきの6次化商品の試食(写真右)やFAX注文用ギフトカタログの配布、また、いわきの復興状況が分かるパネルの展示を行いました。併せて、今年度第1回の「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを開催し、県産農産物のPRやアンケートを実施し、協力者にはお米及びご飯のおともとなる6次化商品をプレゼントしました(写真左)。



(いわきの6次化商品大人気！)



(Iwaki Laiki と天のつぶ、お好きなほうをどうぞ！)

来場客は、「どれも美味しい」「この商品はどこで購入できますか」などと話し、様々な商品に興味を示していました。

アンケート調査の結果、「県産農林水産物を購入したい」に「はい」と答えた方は全体の約 95%を占めました。

「ふくしま満天堂」がイオンモールいわき小名浜店内にオープン [6月12日(火)～]

今月オープンしたイオンモールいわき小名浜店内に、6次化ブランド「ふくしま満天堂」の販売コーナーが設置されました。

イオンモールのプレオープン(6/12)とグランドオープン(6/15)には、ライシーホワイトによる6次化商品のPRや試食が行われ、多くの買い物客が足を止め、熱心に説明を聞いたり、初めて目にする商品に関心を示していました。

取材をした15日は、約50点の商品が陳列され、いわきチョコレート「めひかり塩チョコ」などが販売されていました。



(ライシーホワイトによるPR)

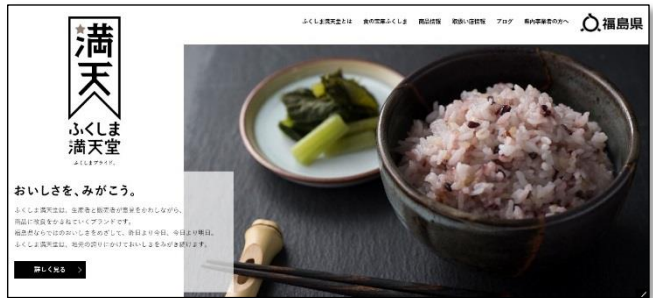
いわき市内の「ふくしま満天堂」は、「道の駅よつくら港」と「小名浜オーシャンホテル」を含め計3箇所となります。(企画部)

「ふくしま満天堂」について

平成29年度、6次化推進プロジェクトとして県が立ち上げた新しいブランドです。県内の生産者と販売者が意見を交わし、6次化商品をさらに魅力あるものへと磨き上げます。

まずは、県内の道の駅や百貨店等におけるテスト販売を通して、バイヤーや販売者の声を聞くところから始めます。そして、研修や商品パッケージの改良等を重ね、現場の声を直接商品改良に活かしながら、本当に「売れる」6次化商品の誕生を目指します。

詳しくは、「ふくしま満天堂」ブランドサイトで！



ふくしま満天堂

検索

いわき伝統野菜の認証制度が開始！

[5月23日(水)]

平成30年度第1回いわき市農業生産振興協議会がJA福島さくら飯野支店で開催され、「いわき伝統野菜認証審査会」が初めて実施されました。

審査基準は「①概ね30年以上前から市内で栽培、②自家採取や株分けで栽培、③現在も市内で生産している」農産物で、市内農業者3戸以上で構成する農業団体が申請者となり、認証有効期間は5年間です。

今回認証されたのは、「いわきとっくり芋、大久じゅう

ねん、山玉おくいも、おかごぼう、むすめきたか(小豆の一種)、小白井きゅうり、わさびだいこん、ごんぼっぱ」の8種類で、とっくり芋などクックパッドで紹介されている食材もあります。また、加工販売者にもデザイン使用を認める制度にもなっています。今後、店頭で「いわき伝統野菜認証デザイン」がある食材を発見したら、是非、手に取ってみてください。(企画部)



(協議会の様子)



いわき伝統野菜認証デザイン

## 藤原幼稚園で食育活動実施

〔6月14日(木)〕

「ふくしま食育実践サポーター」の中村寛子さんによる、「子どもが喜び時短料理教室」が藤原幼稚園（市内藤原町）で実施されました。

料理教室では、園児の保護者 13 名と一緒にデトックスカレー・豆乳リゾット等を作った後、「育脳ふりかけ」（五感を鍛えながら小さな子どもでも作ることができる、無添加・アレルギーフリーのふりかけ）作りの実演も行われ、とても好評でした。

食が子どもに与える影響についての説明もあり、親子での調理やよく噛む習慣の大切さと、それを家庭で上手に取り入れる方法も学びました。また、参加者には、家庭での食育実践にも繋がるよう、食生活改善に関する資料も配付されました。



（参加者へ説明する中村さん）

### 「ふくしま食育実践サポーター」を派遣します

県では、子どもや保護者への食育活動を支援する「ふくしま食育実践サポーター」の派遣を行っています。詳しくはホームページをご覧ください、ご希望の際は下記までお問い合わせください。

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035a/supporterseido.html>

お問い合わせ いわき農林事務所 企画部 ◆TEL：0246-24-6197 ◆FAX：0246-24-6196

## いわき農業青年クラブが食育活動実施！

〔5月17日(木)・6月5日(火)〕

5月17日(木)、いわき農業青年クラブ連絡協議会（以下、青年クラブ）は、常磐第二保育園（市内常磐湯本町）において年中児以上の園児38人を対象に、「やさい教室」を開催しました。本教室は、園児たちに農業や農作物を身近に感じてもらうことを目的としており、園児たちはキュウリやナス、トマト、ピーマン、さつまいもの苗植え、水やりを楽しみながら行っていました。



（常磐第二保育園での様子）

6月5日(火)には、江名小学校において、いわき市教育委員



（江名小学校での様子）

員会と江名公民館が開催した「いわき・わくわく仕事塾」に青年クラブ員が講師として参加しました。当日は、1・2学年の児童31名を対象に、さつまいもに関するクイズを行いながら、クラブ員の指導のもと、さつまいもの苗を植えました。青年クラブの折笠明憲会長から農業という仕事についても説明があり、児童は熱心に耳を傾けていました。児童からは、「自分が植えたさつまいもがどう成長していくか楽しみです」等の感想が聞かれました。

（農業振興普及部）

—毎年6月は、「食育月間」です—

## いわき地方の農業振興に関わる2つの会議を同日開催！

〔5月25日(金)〕

県いわき合同庁舎において、今年度の農薬事故防止や鳥獣被害対策の会議を開催しました。

### ① 平成30年度いわき地方有害鳥獣被害防止対策会議

構成機関であるいわき市、JA全農福島県本部、JA福島さくら、農業共済いわき支所、県いわき地方振興局、当所が一堂に介し、鳥獣被害の現況や課題、対策方針及び補助事業情報などを話し合いました。県では、三和・遠野町の一部地区の2箇所をモデル地区に位置づけ、被害防止活動支援や研修会開催等に取り組んでまいります。



(有害鳥獣防止対策会議)

### ② 平成30年度いわき地方農薬適正使用推進会議

構成機関であるいわき市、JA福島さくら、いわき地区生活研究グループ連絡協議会、(株)平果、県農業総合センター、当所が一堂に介し、無人航空機等の空中散布、農薬飛散・誤使用等の対応、農薬登録等情報共有・周知について話し合いました。今後とも、関係機関と連携を密にして、農薬事故防止に向けて体制を整備してまいります。

(農業振興普及部)

## 平成30年度いわき地方農業土木促進協議会開催

〔6月1日(金)〕

いわき建設会館において、いわき市と管内土地改良区、当所農村整備部による会議を開催しました。

会議では、東北農政局土地改良管理課職員より「土地改良法の一部改正」についての説明を受け、農業従事者の高齢化による組合員の減少や合併など多くの課題を抱える土地改良区の組織運営について活発な意見交換が行われました。

参加者は農業生産基盤の整備や維持管理、担い手の育成、多面的機能の発揮など、土地改良区が農村地域で果たす役割の重要性を再認識し、今後も課題解決に向けて取り組んでいくことを確認しました。

(農村整備部)



(協議会の様子)

## 地すべり防止区域の施設点検で安全を確認！

〔5月10日(木)〕

地すべり防止区域の施設点検を実施しました。

点検対象とした地すべり指定箇所は、上荒川地区(平上荒川)と上平石地区(田人)の2箇所です。点検には定期点検(第1四半期)と臨時点検(震度5弱以上の地震発生時等)があり、今回の定期点検では、地すべり防止施設に異常が無いか、周辺の状況に変化は無いか等を点検し、2箇所とも異常が無いことを確認しました。



(上荒川地区土留施設の点検)



(上荒川地区地すべり防止区域看板)

地すべりとは、緩やかな斜面で、滑りやすい地層に雨水等がしみ込み、その影響で地面が滑り出す現象です。地すべりが発生すると、広範囲にわたって被害が生じる可能性があります。

(農村整備部)

地すべりとは、緩やかな斜面で、滑りやすい地層に雨水等がしみ込み、その影響で地面が滑り出す現象です。地すべりが発生すると、広範囲にわたって被害が生じる可能性があります。

## 松くい虫の被害拡大防止対策

〔6月4日(月)～20日(水)〕

いわき市は、6月4日から20日まで、松くい虫の被害拡大の未然防止を目的に、勿来、四倉・大久、小名浜、新舞子の民有林約193haにおいて、ヘリコプターやスパウダーによる薬剤散布を行いました。

マツは、痩せ地や海岸にも生育することから、土砂の流出や潮害などから住宅や農地を守る国土保全機能があります。また、林産物(木材やキノコ)の生産、白砂青松や街道のマツ並木など景観を保全する重要な働きも担っています。

このため、県といわき市が連携して被害対策を実施しており、薬剤散布のほか、松くい虫被害木の伐採・くん蒸処理を春(5～6月)と秋(10～12月)に行い、被害の拡大防止に取り組んでいます。  
(森林林業部)



(ヘリコプターによる散布作業)

## ホッキガイの初漁

〔6月1日(金)〕

いわき地区で、今漁期のホッキガイの試験操業が開始され、四倉支所と沼之内支所の所属船が操業し約1,500kgを沼之内市場に水揚げしました。

ホッキガイは、久之浜、四倉、沼之内支所の所属船が貝けた網という巨大な熊手のような漁具を使って漁獲します。

なお、ホッキガイは漁期前に貝毒の検査、初漁日に小名浜魚市場で放射性物質の検査を受けており、いずれも検出下限値未満となりました。

ホッキガイの試験操業は12月頃まで週1回程度実施する予定となっています。



水揚げされたホッキガイ  
(沼之内市場)

(水産事務所)

### トピック1

## JA 福島さくらいわき地区本部の新品 「いわきライキ使用 抹茶入り玄米茶」お試しあれ!

6月4日(月)、JA 福島さくらいわき地区本部の皆様がいわき農林事務所へ来所し、新品「抹茶入り玄米茶」をお披露いただきました。

この商品は、いわき産コシヒカリ「Iwaki Laiki」の玄米を使用したお茶で、同本部がプライベート商品として開発されました。より豊かな香りを楽しめるよう玄米の割合を高くするなど改良を重ね、今回完成に至りました。

販売開始は10月以降で検討しているとのことですので、見かけたら是非、味わってください。  
(企画部)

Iwaki Laiki 使用♪



右：大和田いわき地区本部長  
左：家久来いわき農林事務所長

## 頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー！Vol.6

### 様々な品種の米づくりに挑戦し、地域農業の発展を目指します。

あすまのうえん はこざきとしまさ  
有限会社東農園 箱崎寿正さん

前回取材にご協力いただいた遠野町の折笠さんから紹介のあった、いわき市平菅波の水稻農家、箱崎寿正さんにインタビューしました！

#### 様々な品種の米づくりにチャレンジ

寿正さん：(有)東農園では、約18haのほ場で、コシヒカリ、天のつぶ、ミルキークイーン、ミルキープリンセス等の主食用米のほか、飼料用米、酒米と様々な品種を生産しています。「ミルキープリンセス」という品種はあまり聞かないかもしれませんが、ミルキークイーンに比べて粘りが控えめの程よい食感で、冷めてもおいしいのでお弁当などに最適です。また、小麦の生産にも取り組み始めましたが、母と2人では人手が足りないこともあり、忙しい時期には地域の方々にもお手伝いいただきながら、様々な品種の栽培に挑戦しています。



インタビューにご協力いただいた  
箱崎寿正さん(43)

指導農業士で、いわきコメの会の副会長も務められています。

#### 先輩農家に支えられ、農業技術を習得

寿正さん：我が家は、もともと養鶏農家でしたが、父の代から水稻を始めました。学生時代は農作業を少し手伝うくらいでしたが、高校生の時に父が他界したのをきっかけに、卒業後すぐ農業の世界に飛び込みました。普通科の高校を出て、専門的な知識も全く無い状態からのスタートでしたが、幸い、指導してくれる親戚や地域の方がいたので、なんとか乗り越えることができました。無我夢中だったので、今考えると正直「就農したての1年間はどうかやって乗り切ったのだろう…」と思いつけないくらいです。

#### 「おいしい！」の声が原動力

寿正さん：生産した米は基本的にJAや米穀販売店に卸しますが、残りの2割ほどは個人や飲食店に直売しています。直売のお客さんは地元の方が大半ですが、中には親戚や知り合いを通じた口コミにより、東京都や北海道から注文してくれる方もいらっしゃいます。お客さんの「おいしい」という声が聞けたり、リピーターができたときはとても嬉しく、農業のやりがいを感じます。今後は、生産規模拡大や新規品目の導入も視野に入れつつ、地域農業の発展に向けてますます力を入れていきたいと思っています。



田植え作業中

#### (有)東農園は、「いわきハタチ酒プロジェクト」に協力しています！

20歳前後の若者が、水稻の栽培から日本酒を仕込むまでの作業を一貫して体験する「いわきハタチ酒プロジェクト」で、東農園のほ場が提供されています。プロジェクトの様子は当ニュースで随時紹介していますので、是非ご覧ください。(今号はp.9に掲載)

## お知らせ

### いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成30年5月分）

#### □ 農林畜産物の検査結果

平成30年5月の農林畜産物モニタリングでは、検査した11品目24検体すべてにおいて放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

内訳は（表1）のとおりです。また出荷制限状況は（表2）のとおりです。 （企画部）

（表1）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

サヤエンドウ（施設）1、ニラ 1、葉ネギ（施設）1、菌床しいたけ（施設）4、菌床なめこ（施設）1、わらび（栽培）3、ふき（野生）2、はちみつ 1、牛肉 5、豚肉 1、原乳 4
---

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（5月末現在）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る）※、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）
	果 物	クリ（該当生産者に限る）

※わらび（栽培）は、該当生産者6名のほ場に限り出荷制限解除されました。

#### □ 海産魚介類の検査結果

平成30年4月の水産物モニタリング検査では、630検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満（以下、ND）の割合は、平成30年4月には99.0%となっています。現在の出荷制限等指示魚種は（表）の7種類になっています。 （水産事務所）

（表）海産魚介類に関する国の出荷制限等指示

ウミタナゴ	サクラマス	ムラソイ
カサゴ	ヌマガレイ	ピノスガイ
クロダイ	平成30年5月21日現在	

※キツネメバル、シロメバル、スズキは、平成30年4月24日に出荷制限解除となりました。

### トピック2

#### 首都圏で“常磐もの”のおいしさ発信！！

首都圏の大手量販店5店舗で、県産水産物の常設販売コーナー設置の取組が始まりました。「福島鮮魚便」と銘打ち、高品質なヒラメ、カレイ等“常磐もの”を漁港水揚げから直送で店頭へ並び、専門スタッフがお客様と直接対話できる形で販売します。首都圏で県産水産物の品質と安全性を消費者にPRし、流通拡大につなげることが期待されます。

6月1日（金）のキックオフイベントには、畠副知事をはじめ、県漁連会長、店舗協力をいただいたイオンリテール幹部、さかなクンもかけつけ「復活！常磐もの！」を声高らかに宣言しました。この取組は、東京・品川イオンスタイル品川シーサイド店ほか都内・イオン板橋店、東久留米店、むさし村山店、埼玉・越谷市イオンスタイルレイクタウンで来年2月末まで行われます。（水産事務所）



「復活！常磐もの！」



（店頭へ並び“常磐もの”）



「田んぼの生きもの調査」を実施しました！！

6月21日（木）

いわき市山田町の菊田小学校で、田んぼの生きもの調査を実施しました。菊田小学校の児童78名が、田んぼ沿いの素掘り水路に入り、田園環境に生息するナマズやタモロコなどの魚やマツモムシなどの昆虫、ザリガニを採取しました。



（たくさん獲るぞ〜！）



（この生きものは何かな〜？）

今回の活動に当たっては、地元の方や先生方のほか、アクアマリンふくしまの春本宜範氏にご協力いただき、生きもの採取の手ほどきを受けながら、張り切って調査に臨みました。班の中で役割分担をして積極的に取り組んだ結果、驚くほど多くの種類の生きものを採取して、自分の住んでいる地域の自然環境の豊かさを実感している様子でした。

児童からは、「魚がこんなに捕れるとは思わなかった！」「楽しかったのでまたやりたい」などの声が聞かれました。（農村整備部）

「いわきハタチ酒プロジェクト」田植え敢行！！



第2報

～二十歳の年の、米作りから酒造り体験～

いわき市内の酒販店10軒で構成している「いわきハタチ酒実行委員会」は、5月27日（日）に第1回目の活動となる田植えを行いました。この日は、プロジェクトに参加申し込みをした二十歳前後の若者16名が参加し（申し込み総数は24名）、実行委員会メンバーとともに10aの田に県オリジナル酒造好適米「夢の香」の苗を手植えしました。澄み渡る五月晴れの下、JA福島さくら農青連・夏井支部や愛谷堰土地改良区の皆さんの応援を受けながら田植えは順調に進み、午前中に田植えを終えました。昼食



（田植えの様子）

時は、当所が提供した「天のつぶ」のおにぎりの他、市内の居酒屋さんの差入れ（唐揚げ、たまご焼き、味噌汁、アイス等）を食べながら、酒造好適米のミニ講座が行われました。



（参加者と実行委員会メンバー）

◇今後の予定

この日植えた「夢の香」は、東農園さんの管理の下で9月の稲刈りを待ち、冬には市内の太平洋酒造さんで純米酒として仕込まれて一般販売される予定です。「どんな酒になるか」期待を膨らませながら、参加者と実行委員会メンバーは、稲刈りや酒仕込み作業等を経験していきます。（農業振興普及部・農村整備部）

## 大規模経営・生産管理習得研修報告

### 農業振興普及部 地域農業推進課 技師 本田和幸

5月20日から2週間、農業法人の農事組合法人頼成<sup>らんじょう</sup>営農組合（富山県砺波市）で現場実習による研修を受けてきました。この組合は水稲93ha、大麦38ha、大豆6ha、果樹1.5haを経営しており、水稲は全て特別栽培に取組み、ほとんど直接販売で対応しています。

実習では1週目に田植え作業を行い、8条植え田植機2台で1日5haを植えました。93haの水田は事務所から半径3km圏内に集積されているため、作業効率が高いです。また法人経営（会社経営）なので、10時と15時に30分間休憩時間を設けています。休憩時には進捗状況の確認とほ場の危険箇所について従業員間で情報の共有を行っていました。2週目はリンゴの摘果作業や機械のメンテナンス、除草剤の散布作業を行いました。

頼成営農組合では、6名の従業員を雇用しています。そのうち4名は35歳以下の若い従業員で構成されています。技術力向上のため作業は分担制で、段階を踏みながら様々な技術を習得する体制になっています。また、機械の整備ではJAから機械整備士が1対1で指導を行うなど支援体制が充実していました。

本研修は二期制で、9月下旬にも頼成営農組合で2週間研修を行う予定です。稲刈りや大麦の播種作業等を研修する予定になっています。本研修で得られた知見を、今後、本県農業はもとよりいわき市の農業振興施策の推進に役立ててまいります。



（地域の小学校で学校田を開催）



（地元産大麦を使用した焼酎の販売）



（ボートを使用した除草剤散布）



（転作で大麦を団地で取り組む様子）

### 平成30年度第1回いわき地方 GAP 推進協議会を開催！

5月21日（月）、いわき合同庁舎内で、平成30年度第1回いわき地方GAP推進協議会を開催しました。本会は、いわき管内の第三者認証GAP取得拡大に向け、生産から流通・販売までの一連の流れにおける推進活動を行うため、平成29年8月31日に設置されました。

当日は、平成30年度の事業計画について流通、販売関係者や関係機関・団体とともに協議しました。市場関係者からは「流通・小売業界での第三者認証GAPの需要は高まっている。すぐに売り場を設置したい」といった意見がありました。今後ともJA、市、県が一丸となり、生産者に流通業界の声を伝え、第三者認証GAPの取得推進に尽力してまいります。



(第1回実行委員会の様子)

(農業振興普及部)

### QRコードで、GAP取得者の情報を「見える化」！

平成30年3月20日にFGAP認証された農事組合法人菊田の郷助川農園にて、「GAPの見える化システム」が報道機関に紹介されました。トマトの袋にFGAP認証マークとQRコードが貼付されて



FGAP 認証マークが貼付された中玉トマト

いて、QRコードを読み取ることで、認証日や認証品目、HPアドレス等の認証取得者情報を確認できるシステムです。



(助川農園直売所内)

助川農園の代表取締役の助川成光氏からは、「消費者にGAPの認知度が広まれば、より安全・安心な農産物を求めるようになる。地域にGAPが広く伝わってほしい。」との発言がありました。FGAP認証マークが貼付されたトマトは、助川農園内の直売所にて販売されています。

(農業振興普及部)

**ご参加ください！**

### ☆第三者認証GAP取得に向けた相談会を開催します☆

■日 時：7月4日（水）13：30～15：00  
 ■会 場：県いわき合同庁舎 3階  
 いわき農林事務所 農業振興普及部内

■予約方法：7月3日（火）17：00までに農業振興普及部（24-6161）へご連絡ください。

当所では、毎月農業者の皆様へ第三者認証GAPの取得推進を図るため、相談会を開催しています。第三者認証GAPについて詳細を知りたい方、実際に取組を希望する方、補助事業の活用を希望する方…等、GAPに関することについてご相談のある方は**どなたでも無料で参加できます**。少しでも興味のある方は、あらかじめお申し込みの上、是非ご参加ください。

こだわりと美味しさがつまった  
いわき自慢の6次化商品をご紹介します！

渡辺町の中村さん親子が営む「ファーマーズハウスさわ」では、旨味を凝縮させた干し椎茸を使った6次化商品販売しています。「原木椎茸の和風ピクルス」は、試行錯誤の末たどり着いた、椎茸に合う和風の漬け液がポイントで、食べた瞬間、口いっぱい広がる椎茸本来の香りと旨味、厚みのある原木椎茸ならではの歯ごたえを存分に楽しむことができます。噛めば噛むほど味わい深い、優しい甘みが特徴の「原木椎茸の甘煮」は、ご飯にとても合い、つつい箸が進んでしまう美味しさで、地元の方々に愛されています。椎茸農家だからこそ出せる「ファーマーズハウスさわ」こだわりの味を是非お召し上がりください。



中村さん親子

お問い合わせ

**ファーマーズハウス さわ**  
●いわき市渡辺町中釜戸字大木田65  
●TEL.090-4042-3520  
●Mail info@nakakamado.com

原木椎茸の和風ピクルス



●内容量/140g  
●販売価格/600円(税込)

レンジで加熱した玉ねぎと混ぜても美味しくいただけます。

販売店舗  
・ファーマーズハウスさわ  
・田舎んぼ

原木椎茸の甘煮



●内容量/170g  
●販売価格/380円(税込)

お蕎麦のめんつゆに入れたり、刻んでご飯に混ぜたり、煮物に加えたりと様々なアレンジでお楽しみいただけます。

販売店舗  
・ファーマーズハウスさわ  
・田舎んぼ  
・ファーマーズマーケットいがつべ  
・道の駅よつくら港

編集後記

今月、「イオンモールいわき小名浜店」がついにオープンしました。p.3でご紹介していますが、福島県の6次化新ブランド「ふくしま満天堂」が設置されたということで、早速、偵察に行ってきました。驚いたのが、「ふくしま満天堂」だけでなく、食品売り場の小名浜近郊野菜や常磐ものコーナーなど、地元産食材の売り場がとても充実していたことです！おにぎり売り場では、「福島県産天のつぶ使用」と表示があり、思わず購入してしまいました。とても美味しかったです。

お客さんには県外の方もいるでしょうから、「いわきの美味しさを伝えるチャンス！」と期待が膨らむ偵察となりました。



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。  
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課  
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地  
(県いわき合同庁舎 3階)  
TEL (0246)24-6152 FAX (0246)24-6196  
URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース